

## 令和4年度第1回 滋賀県観光事業審議会 議事概要

### 1 開催日時、場所

日 時：令和4年7月11日（月）15:00～17:00

場 所：滋賀県庁 北新館5-B会議室

### 2 出席委員（敬称略、五十音順）

○委員：石川 亮、伊吹 惠鐘、上田 未来、金子 博美、川口 洋美、佐藤 泉、  
大道 良夫、羽田 真樹子、林 優里、日比野 敏陽、廣岡 裕一、松田 大祐、  
山本 典彦、吉田 満梨

○オブザーバー：

江川 寛、濱 秀樹（代理出席）

### 3 議題等

■ 浅見商工観光労働部長挨拶

■ 定足数の確認

■ 議題（1） 令和3年度「『健康しが』 ツーリズムビジョン2022 アクションプラン」の  
評価について

事務局より、資料3について説明。

（会長）

- ・ 延べ観光入込客数と述べ宿泊者数R2からR3にかけて伸びているが、観光消費額は減っているのはなぜか？

（事務局）

- ・ 昨年度実施した県の調査において、観光地で観光消費額のアンケートを実施した。アンケートによると、観光消費額の単価が日帰りの方の消費額が減っている。その影響により、観光消費額が大きく減っている。

（委員）

- ・ web物産展の売上額について、目標額が2億円に対して実績が7億円になっている。目標額の設定は正しかったのか。また、滋賀県ではどういう地域でどのようなものが売れているのか。

(事務局)

- ・ 当初予算では 9000 万円の事業費を計上し、売上の 3 割を原資としている。そのため、目標額は、事業費と原資で決めていた。その後、新型コロナウイルス感染症の関係で追加補正を行っている。当初は、楽天だけで開催していたが、途中で yahoo も同時に開催することとなった。このため、原資の金額が増え、実績も上回る事となった。議会で認めていただいた予算は、ほぼ 100%、3 割の金額に負担している。

実際に一番売れたのは、お米とお肉。お米は生活に必要な物であり、この機会にと思われて購入されている。近江牛についても、この時にしか手が出せないものとして購入に繋がった。

web 物産展は、消費者に対してのプロモーションになった。それに加えて、この機会に web 販売をしたい事業者が 2 年間で 20 件ほど出てきて、web チャンネル事業化に貢献でき、大きな成果となった。

(オブザーバー)

- ・ コロナ禍の中で人の動きが限られたが、13 件中 6 件の目標を上回れたことは、旅行業に携わるみなさんの後押しとなった。事業を展開していただいたことに感謝申し上げます。

(オブザーバー)

- ・ 「今こそ滋賀を旅しよう」や感染症対策、前向き投資などの支援策があり、会員からも助かったという声を聞いている。国の動きもあり、急に始まらざるをえないことも多いが、事業者や県と連携と取りながら、周知し有効に活用していけるように周知していきたい。

## ■ 議題（2） ビワイチ推進基本方針（答申案）について

(会長)

- ・ 次に、議題（2）ビワイチ推進基本方針（答申案）について議論する。今年 3 月に知事から当審議会あてに、ビワイチ推進施策を総合的かつ計画的に推進するための基本方針の策定について諮問があった。これを受け、4 月、6 月、7 月に開催したビワイチ推進基本方針策定部会での議論を経て、本日の審議会では「ビワイチ推進基本方針答申案」について御議論いただく。本日の審議会での議論を踏まえ、今月中に当審議会から知事あてに答申を行い、その後、答申内容を受け、県において議会の議論やパブリックコメント等を経て、11 月 3 日の「ビワイチの日」までに基本方針が策定される予定である。ここで、基本方針答申案の審議に先立ち、ビワイチ推進基本方針策定部会の会長である大道委員に、基本方針答申案について説明をお願いします。

(委員)

- ・ ビワイチ推進基本方針策定部会の人数は7名。本日はそのうち3名参加していただいている。いろんな立場の方に参加していただき、それぞれの立場から活発に意見を出していただき、中身の濃い議論ができた。また、会議に先立ち、資料を送ってもらい修正を重ねた。

たいへん多くの意見をいただいたが、それを個々に整理し、ビワイチ推進基本方針(案)に盛り込んでいった。体力の必要な本格的なサイクリングだけでなく、初心者やお子さんのいるファミリーでもサイクリングを楽しめる方針を出し、それに対する環境整備の方向性についても力を入れた。

ビワイチ推進基本方針の副題に「誰もが楽しめるビワイチを目指して」とあるが、この理念をビワイチ推進方針案の随所に盛り込んでもらっている。老若男女だけでなく、障害のある人でも気軽に楽しめるビワイチを目指している。このような目標を掲げ、ビワイチを楽しむ人、さらにビワイチの楽しみ方を広げていきたい。

最後に持続可能な観光を推進するため、サイクリストを含めて琵琶湖の環境保全、環境美化、文化財等の保護にできるだけ関与していくこともビワイチ推進基本方針に盛り込んだ。自転車に乗りながら社会貢献することも必要であると考えている。

各委員の思いが具体的に文章化された良い方針ができたと思っている。御審議よろしく願います。

(会長)

- ・ ありがとうございます。それでは、ただいま御説明いただきましたビワイチ推進基本方針答申案 の詳細について事務局から説明をお願いします。

事務局より、資料4-1、資料4-2、資料4-3、資料4-4について説明。

(会長)

- ・ それでは、ただいまの事務局からの説明や、ビワイチ推進基本方針(答申案)について、策定部会員からの補足はあるか。

(委員)

- ・ ビワイチの基本方針を検討するにあたり、一部の特定の人が琵琶湖を回るための基本方針にしないで欲しいという意見があり、そのような意見をしっかりと取り上げて検討してきた。

私も副題がついたことは、大変良かったと思っている。基本方針となると難しいものとなるが、副題がついたことで分かりやすくなった。「誰もが」というのは、老若男女だけでなく、障害者を含んでいる。滋賀県は、障害者への支援について熱心に取り組んできた。

こういったものを滋賀県から発信していくことは非常にいいことである。誰もが参加できる地域が広がることを意識して作成した。単に自転車で走るだけでなく、文化にも触れて滋賀県を楽しんでいただき、ビワイチを通してシガリズムを体験してもらいたい。

ビワイチ推進基本方針は、滋賀県だけが取り組むのではなく、サイクリストや県民と一緒に盛り上げていくことを目指している。

#### (委員)

- ・ ビワイチの関連データにおいて、スポーツバイクに初めて乗る初心者の人口を増やすための目標やマイバイクをお持ちの方に自転車に乗って滋賀県に来てビワイチを楽しんでいただくための目標はあるか。

初めての人にどれだけ安全に提供するのか、初めての人が自転車に乗る機会を増やすかが重要と思っている。この方針だとすでに自転車を持っている人、やったことがある人向けに力が入っている。ロードバイクだけでなく、ストライダーやBMXのような自転車全般を滋賀県内各地で親しむ・楽しむ場を作りだしてほしい。もっと広く普及できる場があればいいと思った

マイバイクをお持ちの方に対して、世界中・日本中の方に来ていただいて観光促進していくことになるが、サイクリストは車をどこに停められているのか。今後ビワイチを推進するうえで事業者や駐車場の所有者はどこまで納得して受け入れてくれているのか気になっている。自転車に乗るまでのアクセスや駐車場・道路整備、エリア整備も各事業者任せではなく、県主体でやってほしい。

#### (事務局)

- ・ 初心者の割合について、資料4-1内の「ビワイチ関連データ」に男女比が載っているが、女性の割合が非常に少ない。また、初心者の範囲が難しく正確な人数の把握は困難。

サイクリングに関心を寄せている方、サイクリングがしたい方は48.2%、したくない方34.0%とあり、半分程度の方はサイクリングに関心を持っていただいている。この中から、どれだけの方がビワイチをしているのか分からないが、したことがある方は10.2%、したことがない方が89.8%になっている。また、ビワイチの認知度は83.2%、知らない方は16.8%となっており、関心を持つ人は増えてきていると思っている。

初心者の方にとって取り組みやすい施策については、資料4-2 p.16に「誰もが楽しめる自転車散策の推進」がある。自転車を乗りながら、自転車を降りてゆっくり観光していただく自転車散策を推進したい。MLGsをテーマに滋賀の自然や歴史をめぐるモデルプランづくりに取り組んでまいりたい。

老若男女だけでなく障害のある人など、誰もが楽しめる自転車散策を推進したいと思っている。そのためには、簡単にレンタサイクルを借りられることが必要で、資料4-2 p.21「レンタサイクルのサービス・質の向上」を記載している。レンタサイクルについて

は、電動アシストや子ども用自転車、タンデムを借りたいという声を聞いている。予約しにくい課題もあり、まずは台数の確保、予約のシステム化、返却拠点の増加などに取り組み、楽しみ方を広げて利用しやすいレンタサイクルの環境整備を進めたい。

サイクリストが車と停めている場所は、大きく2つある。1つはピエリ守山の無料駐車場、もう1つは宿泊施設の駐車場。宿泊される場合は、前泊または後泊などによりビワイチを楽しんでいただいている。

(委員)

- ・ 初心者が自転車を親しめる場作りは重要であるが、はじめから完璧なものではなく、その都度充実させていくものと思っている。

ママチャリでも変速ギアがついているので十分に楽しめる。初めは手持ちの自転車で楽しんでいただければと思う。子ども用自転車は、浜大津にサイクルステーションができて、レンタル自転車を50台置いているが、いつも貸出状態になっている。それ以外にも、各ホテルにも準備していただいている。遠くから来られる方に対しては、わざわざマイバイクを持ってこなくても、楽しめる環境整備が必要。今後、レンタカーと同じく乗り捨てができると、自転車で周遊する面白さがさらに広がると思っている

車を停めるところは、道の駅などを活用している人もある。南湖側に停める場所がなければ北湖一周がビワイチとなり、南湖も含めた本来のビワイチを進めるには、琵琶湖大橋よりも南にビワイチできる拠点ができてほしい。

浜大津にサイクリングの拠点ができたが、気軽に車を止められるようPRしていく必要があると思っている。

(事務局)

- ・ 今後の取組方針であるが、基本方針は9年間であり、その間の整備等の具体的な内容は、3年ごとにアクションプランの中で整理していく。

今後、「サイクリストにやさしい宿」の駐車場を活用するなど観光消費につながる取組を進め、ビワイチ、ビワイチ・プラスの入口をわかりやすくPRしていきたい。

(委員)

- ・ 従来のビワイチのイメージからすると、誰もが楽しめるビワイチ・ビワイチプラスと聞き、スポーツが苦手な人でも関われそうで親近感がわく。こういったことが進むに従って、自転車を停める場所の確保が重要になり、例えば、湖岸であれば県主体で駐輪場を確保できるかもしれないが、湖岸以外の場所はどのように拠点づくりを進めていくのか今後検討いただきたい。

(事務局)

- ・ サイクリングの拠点づくりは重要と思っている。駐輪できる場所がない件については、例えば、食事をする場所の駐輪スペースや、スタート時の場所など、動向を見ながら検討していきたい。

(委員)

- ・ 大きな施設は駐輪所を設けているところが多い。問題は商店街だと思う。

(委員)

- ・ 既存の場所にお迎えするときにどういった対応ができるのかが課題である。

(委員)

- ・ 商店街の中は自転車を押して進んでもらったり、駐輪場の区画を作ったり、その場所に見合うルールを地域の方で検討いただきたい。みんなよりよい利用環境を考えていくことがよいと思う。

(委員)

- ・ 八日市のラーメン屋さんで、サイクルスタンドを置こうかという話になった。正規のものを買うと高くつくがどうしようか迷っていた。こういった話があがるくらい、琵琶湖から離れたところでも自転車での観光が定着していると思った。

(委員)

- ・ ビワイチの推進は、自転車に乗る人をメインに考えられている。先ほど、乗ったことない人がもっと自転車に乗って自転車に親しんで欲しいとあったが、自転車人口が増えると自転車の見方が変わり、自転車にやさしい人が増えると思う。

駐輪場、駐車場の問題も、自転車で行けるところは自転車側だけでなく、観光客を受け入れる側の立場として滋賀県全体がやさしい気持ちで受け入れられるような街づくりを含めて網羅できる施策になればいいと思った。

(委員)

- ・ 琵琶湖まわりを走っていると、女性や、親子などのファミリーを最近見かけるようになった。最近の県の取組で、デジタルスタンプラリーはよくできていると思った。昨年、スタンプラリーは10市町で実施されたが、参加すると子どもが先頭をきって頑張って走っている姿が見られた。家族で会話をしながら、新たに自分の街の発見や日常的に自転車に乗るきっかけになると思った。みんなが自転車に楽しく乗れて、さらに自転車に乗るだけでなくお互いに相手のことを気遣う社会にしたい。デジタルスタンプラリーはよい体験になり、効果的な取組であると思っている。

(委員)

- ・ 天候に左右されやすいというのが、サイクリングツアーの課題。天候が悪ければ、2～3日前にキャンセルされることもある。こちらも頑張ってウォーキングツアーへの変更等でお誘いしているが、雨がネックになっている。初めからウォーキングツアーであればその問題はないが、サイクリングツアーはどうしても天候に左右される。一定の需要があることは確実で、好きな方はどこに行っても乗りたいものということも分かった。

自転車に力を入れている他の府県はあると思うが、その中でも滋賀ならではのことを考えて強化していただければと思う。

サイクリングツアーは駅で集合し、駅からスタートがほとんど。残念ながら駅には拠点がなく、よそまでレンタサイクルを借りに行ったりしている。特に外国人の方は電車移動になるので、駅に拠点があると助かると感じている。

(委員)

- ・ 彦根や近江八幡、守山といった大きな駅には、グループ会社が運営するレンタサイクルの拠点が、昨年度、滋賀県やビューローのお力添えもいただき、電動自転車の増設なども進めてきた。

あわせて、本年4～6月に彦根において自転車で観光地を巡るキャンペーンを行い、前年比2倍の実績が出ている。秋には近江八幡での実施を計画している。ピワイチを滋賀の観光の主力商品の一つとして取り組んでいきたいと思っている。

電子予約の仕組みについて資料に載っていたが、米原駅や大津港といった拠点での予約状況は把握しているか。また、シェアサイクルのような、非対面で乗り捨ても含めて利用しやすい仕組みを検討などしているか？

(事務局)

- ・ 米原駅の利用状況は、コロナ前の状況に近づいている。土日は在庫の台数近くまで予約が入っている。一方、夏休み中の予約の入り方は遅い状況。利用者は京阪神・愛知からが多く、東京はほとんどない。大津港の利用状況は、開店当初のGWや土日に利用が進んでいるが、平日の利用はなかなか難しい状況。

シェアサイクルとの連携について現時点では具体的な検討はない。今後、レンタサイクルの活用促進の踏まえ、有効な活用ができるかどうかを見極めていきたい。

(会長)

- ・ 先ほど話に出ていた乗り捨てるシステムが実現できればと思うが、だれかお知恵はないか。

(委員)

- どこかに自転車が置ければよいと思っている。また、学生の意見として、どこかの駅で停めて帰りたいという意見もある。JRさんと面白い連携ができればと思うが、すぐには難しいと思っている。基本方針が作成できるところまで自転車を取り巻く状況が醸成されつつある。策定された基本方針を今後更新していくことが大切。様々な立ち位置の人が関わり、トライアンドエラーを繰り返しながら推進していくことが大事だと思う。自転車に乗ることだけでなく、自転車を置いてその先に歩いていけることを広めていければと思う。

ソーシャルデザインの授業をしている。ソーシャルデザインというのは社会とどう関わるかという意味だが、その中で「ビワイチの日」を作る、基本方針を策定することを学びつつ、自転車のある生活が今後自分たちの生活や社会をどう変えていくのかに取り組んでいる。

(委員)

- ビワイチの定義であるが、琵琶湖を自転車で一周することまたは県内の観光地、景勝地等を自転車で周遊することとあるが、本日の質問もこの言葉の意味がポイントになった。

ビワイチ推進基本方針は、全体の印象としてサイクリストの方針に読めてしまう。意図しているところは様々に書いていただいていると思うが、サイクリストと思っていないが観光の足として自転車がよいと思っている人への取組もあればいいと思った。

観光施設側のインフラ問題、コース整備の問題が考えられるが、ビワイチの定義のどちらにも共通している課題である。サイクリストの数だけに着目して目標を達成しようとするのが難しい。

マイカーがないため電車で移動するが、駅以降が遠くてビワイチは難しいと思っている。自転車を活用してみんなで周遊できる魅力があると思うので、交通手段の一つであることも含め、わかりやすいビワイチが重要と思うが、どのように考えているのか。

(事務局)

- 資料4-4「ビワイチ推進条例」の第2条でビワイチについて定義している。ビワイチは、琵琶湖を一周するビワイチと県内の観光地等を周遊するビワイチ・プラスを含めて、広い意味でビワイチという使い方をしている。言葉の使い方を丁寧に扱っていききたい。

ビワイチはどこから始めたらよいのかとよく御質問をいただく。ビワイチのゲートウェイである米原駅や、大津港には規模の大きなレンタサイクルがある。さらにはJRのレンタサイクルもあり、電車や車の場合ごとにアクセスも異なるので、わかりやすいPRをしていきたい。

(会長)

- ・ 観光の移動手段としてのビワイチも念頭に置かれているお話しもあったが、琵琶湖から離れている市町の例として甲賀市はどのように取り組んでいるか。

(委員)

- ・ 甲賀市は琵琶湖から離れていており、ビワイチ・プラスの活用に取り組んでいる。ビワイチは素晴らしい観光資源と思っている。  
シガリズムを推進するなかで、ビワイチを単純な健康だけのサイクリングにするだけでなく、心の健康にもつながる可能性がある。連携して取り組みたいと思っている。

(委員)

- ・ 阪急沿線のレンタサイクルを利用しているが、常に完璧に整備されておりとても便利である。自転車は、ボロボロになっていくが、整備は面倒である。そのため、自転車がしっかり整備されるとすごく楽に感じる。そういう拠点があると一歩踏み出しやすい。ふらっと寄って、地域をめぐりやすくなるのではと思っている。

(委員)

- ・ 冒頭にあったが、基本方針であって細かい計画ではない。「だれでも楽しめる」の一言に押さえられたと思っている。ビワイチという言葉が誕生してこれからどう育っていくのかは、みんなの意見で育て上げていく。議論を盛り上げていきながら作り上げていき、県もしっかり施策を推進していってもらえればと思う。  
先ほど、サイクルラックの話があったが、サイクルラックがあっても自転車にしっかり施錠しないと盗まれる問題がある。もう一つ問題を挙げるとしたら、お風呂に入るところがない問題がある。一つのケアとして銭湯との連携も考えられる。自転車らしい地域観光として可能性があると思った。

(オブザーバー)

- ・ 旅行会社としては、ビワイチ・プラスに関わる人が多いと思われる。地域を発着するビワイチ・プラスのプランを作成しつつ、全国の観光客を集めていきたい。

(オブザーバー)

- ・ 立派な基本方針を作っていただいたので PR に力を入れたい。コンテンツの中にビワイチをどのように取り込んでいけるか県と一緒に考えていきたい。

(事務局)

- ・ ビワイチ基本方針は心を込めて作ってきた。滋賀県らしさが出ていると考える。ご意見を参考にしながら、県民と一緒に作っていきたい。ビワイチが皆さんに親しんでいただけ

る、みんなで思いやりのあるものにしていきたい。

(会長)

- ・ 本日の皆様の御意見を踏まえ、ビワイチ推進基本方針答申案のとりまとめについては、会長に御一任いただき、事務局と調整をした上で、審議会として答申したいと考えますが、皆様よろしいか。

※異議なし

(会長)

- ・ それでは、御一任いただきましたので、事務局と調整した上で、審議会としての答申案を取りまとめる。先ほども申し上げましたが、答申後は、県において、議会の議論やパブリックコメント等を経て、11月3日までに基本方針が策定される予定である。それでは、本日の議題は以上です。進行を事務局にお返す。

(事務局)

- ・ 以上で本日の会議を終了させていただく。

<閉会>